

普及現地情報



発信年月日：令和4年（2022年）9月15日

所属名：東近江農産普及課

番号：D22012

部門分類：150（野菜）

発信者名：井上

イチゴの育苗期における自動ミスト散水による昇温抑制対策

東近江管内では、59戸（7.8ha）で少量土壌培地耕によるイチゴ栽培が行われています。イチゴの育苗は、3月から始まり定植期の9月下旬頃まで行われます。近年は猛暑により、生産に必要な苗数の確保が厳しい状況であることから、夏季高温期に新たにミスト散水を活用した育苗技術について取り組みを行いました。

イチゴの育苗期間は、育苗ハウス内の温度が高く推移することから、現状遮光資材やサイド等の開閉等で対応されています。

しかし、それらの対策を行っても近年はハウス内の温度が日中40℃を上回る日が続くこともあり、高温による生育抑制が影響し安定した苗数と苗質の確保が厳しい状況でした。

そこで、今回新たに昇温抑制対策として農業技術振興センター農業革新支援部と連携し、ICTバルブ（温度による開閉設定ができる電磁弁）を利用した自動ミスト散水の展示圃（270㎡）を設置したところ、導入されないハウスに比べ、日中のハウス内温度が約1～2℃程度低く推移するほか、葉焼け症状等の高温障害が軽減されることを確認しました。

コストも9万円/60m程度と安価で導入しやすい為、今後育苗期における夏季の高温対策として地域の生産者に情報提供するとともに円滑に活用できるよう支援を行っていきます。



ICTバルブの設置状況



自動ミスト散水の様子